

令和5年9月29日

西部農林水産振興センター大田農業部

標 題 | 地元の農業を知ろう！～水稲・アスパラガス・ブドウ～ in 邇摩高校

(ダイジェスト)

邇摩高校農業系列2年生の生徒24名を対象に、大田市の主要品目であるブドウ、水稲、アスパラガスについて授業、現地視察を開催しました。生徒たちには、今回の授業、現地視察から地元農業への知識・理解を深め、今後の進路や課題研究に活かしてほしいと思います。

大田市の農業への理解を深めてもらうことを目的として、島根県立邇摩高等学校農業系列2年生を対象に、令和5年9月5日に出前授業、11日に現地視察を開催しました。

9月5日の授業では、大田市の農業の概要について説明後、市の主要品目であるブドウ、水稲、アスパラガスの授業を行いました。

JAしまね石見銀山地区本部からは、ブドウとアスパラガスについて説明があり、基本的な栽培方法や大田市で多く栽培されているブドウの品種について学びました。また、農業技術センター、出雲市の協力のもと、ブドウのVR摘粒体験を行いました。

大田農業部からは、水稲や集落営農についての基礎的な内容の授業を行いました。大田市の水稲作付け状況や水稲の栽培サイクルについてクイズを交えながら行い、農事組合法人の特徴やメリットについてドローンやラジコン除草機の作業動画を見せ、9月11日の現地視察の参考となるような説明を行いました。

9月11日には、授業内容を踏まえ、原田ブドウ園、農事組合法人百姓天国に現地視察に行きました。座学のみでなく、実際に現場を見て、生産者の声を聞くことで新たな発見があったようです。生徒達からは、「シャインマスカットの上に3粒だけ残してあったのが糖度を測るためのものだったのが印象に残った」「ドローン、ラジコン草刈り機やコンバインなどを操縦することで、人の力仕事を減らしていることが分かった」「お金も手間も農業には大切なんだと思った」などの声が聞かれました。

邇摩高等学校では3年時に「課題研究」という授業があり、生徒達自らテーマを設定し、調査・研究活動を行います。今回の授業を通して、地元農業に興味をもち、テーマ選定の参考にしてもらいたいと考えています。農業部としては、今後も地元農業への理解を深める授業を実施し、将来の担い手確保につなげていきます。

